事業所から出る産業廃棄物等（食品ロスを含む）を対象とした調査です

1 調査の目的

令和６年度における京都府内の産業廃棄物等（食品ロスを含む）の発生、処理状況等の実態を調査し、併せて将来の予測を行うことにより、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第５条の５の規定に基づく廃棄物処理計画策定等のための基礎資料を得ることを目的としています。

2 調査の方法

本調査は、京都府内の産業廃棄物等（食品ロスを含む）の発生、処理状況等を業種別、種類別、地域別等に詳細に解析し現状を把握するため、郵送によるアンケート調査等により実施します。（アンケート回答は郵送又はメールで提出可能）

3 調査対象期間

本調査の対象となる期間は、令和６年度（令和６年４月１日から令和７年３月31日までの１年間）です。従って、この期間中に発生した産業廃棄物等や食品ロスの状況について記入してください。

4 調査対象事業所

本調査票が送付された事業所のみを対象としています。従って、他所に本・支社（店）、工場等がある場合でも、それらの事業所は本調査の対象とはなりません。

5 対象廃棄物等

・別添の「廃棄物分類番号表」に示す産業廃棄物
・事業所から出る食品廃棄物
・自社内で再生利用したもの、他者に売却したもの、無償で引き渡したもの

6 調査票の構成

本調査は以下の調査票および参考票から構成されています。

◆産業廃棄物実態調査票 その１，その２　：１部
◆事業所から出る食品廃棄物等の実態調査票 その３　：１部
◆産業廃棄物等に関する意識調査票　：１部
◇本票　：１部
◇廃棄物分類番号表　：１部
◇食品廃棄物等のうち可食部・不可食部の考え方について：１部

調査票の様式（EXCELデータ）は、次の京都府循環型社会推進課ホームページからダウンロードできますので御活用ください。
（京都府循環型社会推進課ホームページ）
https://www.pref.kyoto.jp/junkan/news/jittaityosa2025.html

7 記入方法

本票中面の「調査票の記入要領・記入例」を参考にして記入してください。
なお、記入欄は15行まで記入できるようになっていますが、不足する場合は、お手数をおかけしますが用紙をコピーして記入してください。

8 提出方法

御記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に３つ折りにして入れていただき、**令和７年12月26日（金）**までに御返送をお願いします。（切手は不要です。）

また、ホームページより調査票をダウンロードされて、電子データ（EXCELデータ）で作成された方は、メールでも提出していただけます。

提出先メールアドレス：sanpai@nic-solutions.jp

9 その他

御提出いただいた記入内容について、お問合せする場合もありますので、調査票の控えを取っておいていただきますようお願いいたします。

※ 秘密の保持について
本調査における内容については、目的以外に使用せず、個々のデータについては、秘密を遵守します。

記入方法に関するお問合せは、本調査業務を京都府から受託している日本情報通信㈱までお願いします。
・「よくある質問」や「記入方法」は、下記のページにまとめております。一度御確認ください。
（令和７年度京都府産業廃棄物等実態調査ページ）
https://www.nic-solutions.jp/sanpai

お問い合わせ先：075-721-7888　e-mail：sanpai@nic-solutions.jp
担当：福島、野崎

＜調査票（その１）の記入要領・記入例＞

京都府産業廃棄物等実態調査票【その1】

京都府

事業所から出る産業廃棄物等（食品ロスを含む）を対象とした調査です

調査票番号
00000000

※太枠内を御記入ください。

事業所の概要	事業所名	株式会社〇〇〇〇			事業内容：パルプ・紙・紙加工品製造業
	所在地	〒〇〇〇－〇〇〇〇 京都府〇〇市△△町□□番地			
	記入者	部署名：総務部　総務課			
		フリガナ 氏名：〇〇　△△	電話番号：(〇〇〇)〇〇〇－〇〇〇〇		
	従業者数	令和7年3月31日現在の従業者数（パート等の臨時職員及び役員等を含む）を記入してください。	30人		

事業の概要	砂利・玉石等採取量（鉱業のみ記入）	製造品出荷額（製造業のみ記入）	事業所の形態
	令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の採取量を記入してください。	令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の額を記入してください。なお、製造品出荷額は、工場出荷金額とし、加工（受託加工）賃収入額も含みます。税抜き金額を記入してください。	貴事業所の形態に対する番号に〇を付けてください。
	㎡	千億 百億 十億 億 千万 百万 十万 万：3 5 2 0 0 0 万円/年	①工場・作業所（+事務所） 2．開発・研究所（+事務所） 3．事務所、店舗など 4．その他（　　）
	販売額（卸売業，小売業のみ記入） 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の額を記入してください。	千億 百億 十億 億 千万 百万 十万 万 万円/年	

産業廃棄物等の発生状況

令和6年度の1年間に貴事業所で産業廃棄物等は発生しましたか。該当する番号を〇で囲んでください。

① **発生した**

『産業廃棄物』に指定されている品目を **別紙「廃棄物分類番号表」** に示します。
なお、事務所から発生する紙ごみは「産業廃棄物」ではなく、事業系の「一般廃棄物」です。

2．発生しなかった → 調査票【その3】、【意識調査票】の回答へお進みください。

上記「**1．発生した**」を選択された場合のみ、御記入ください。

産業廃棄物等の報告状況

産業廃棄物等の発生状況について既に報告されていますか。該当する番号を〇で囲んでください。

1．電子マニフェストで報告している → 調査票【その2】に貴事業所から生じた産業廃棄物の排出・処理状況等を記入いただき、次に、調査票【その3】、【意識調査票】の回答へお進みください。

※自社処理分がない場合は、調査票【その2】の回答は不要です。

2．産業廃棄物処理計画実施状況報告書で報告している → 調査票【その3】、【意識調査票】の回答へお進みください。

③ **上記１、２に該当しない** → 調査票【その2】に貴事業所から生じた産業廃棄物の排出・処理状況等を記入いただき、次に、調査票【その3】、【意識調査票】の回答へお進みください。

建設業以外

＜調査票(その2)の記入要領・記入例＞

調査対象期間

●この調査の**対象期間は、令和６年度（令和６年４月１日～令和７年３月31日）の１年間**です。この期間中の産業廃棄物等の発生と処理・処分の状況を質問①～⑬までの流れに従って記入してください。

調査対象とする事業所と産業廃棄物

●この調査では、事業活動によって発生する産業廃棄物、有価売却あるいは無償で引渡している副産物が対象となります。

●産業廃棄物がどのように分類されているかを示すために、別紙に**「廃棄物分類番号表」を掲げてありますので参考にしてください。**

発生量について

●発生した廃棄物の「名称」と「発生量」の回答欄には、**「焼却」、「脱水」等の処理を行う前の「名称」と「発生量」**をお答えください。

○**自社で焼却**している場合、発生した廃棄物とは**焼却前のもの**です。（記入例Ｂを参考にしてください）
木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑥中間処理後量」となります。

○**自社で脱水**している場合の発生した廃棄物とは**脱水前のもの**です。（記入例Ｃを参考にしてください）
汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された１年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算してください。
＜式＞：（脱水前の汚泥発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（１００％－脱水後の含水率％）÷（１００％－脱水前の含水率％）

●廃油（機械油など）について
○ドラム缶の本数で把握されている場合は、１本＝１８０kg（２００リットル）
○一斗缶の本数で把握されている場合は、１本＝１６．２kg（１８リットル）　として換算してください。

●廃タイヤについて、本数で把握されている場合は、
○大型車用：４０ｋｇ/本
○普通車用：７ｋｇ/本　　として換算してください。

記入について

●記入対象は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有価売却あるいは無償で引渡している副産物が対象となります。

●同じ種類の産業廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問①の欄から行を分けて記入してください。

●処理業者へ処理・処分を委託している場合は、マニフェスト伝票等を参考にして記入してください。不明な点は、具体的な内容を処理業者に確認した上で記入してください。

④中間処理方法コード表

Ａ：焼却
Ｂ：脱水
Ｃ：天日乾燥
Ｄ：機械乾燥
Ｅ：油水分離
Ｆ：中和
Ｇ：破砕･粉砕
Ｈ：分級
Ｉ：圧縮
Ｊ：溶融
Ｋ：切断
Ｌ：焼成
Ｍ：堆肥化
Ｎ：銀回収
Ｏ：ｺﾝｸﾘｰﾄ固型化
Ｐ：滅菌
Ｑ：煮沸
Ｒ：ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ
Ｓ：薬物消毒
Ｖ：濃縮
Ｗ：油化
Ｘ：選別
Ｙ：固形燃料化
Ｚ：その他

⑦処理・処分方法コード表

＜自己処理＞
Ｖ１：自社で再利用した。
Ｗ１：売却（利益があった）した。
Ｚ１：自社で保管している。
Ｑ１：自社の処分場で埋立処分した。

＜産業廃棄物処理業者等へ委託処理＞
Ｕ１：処理業者に中間処理（資源化・リサイクルを含む）を委託した。
Ｘ１：廃品回収（資源）業者、あるいは納入業者、関連企業等で再生処理をした。
Ｓ１：処理業者の処分場で直接埋立処理した。（フェニックス含む）。
Ｔ１：処理業者で直接海洋投入した。

＜市町村へ委託処理＞
Ｒ１：市町村等が設置する一般廃棄物処分場で埋立した。
Ｒ５：市町村の清掃工場で焼却等の中間処理をした。（ごみ収集を含む）
Ｒ６：市町村の清掃工場でリサイクルした。

＜その他＞
Ｚ９：その他

⑩委託中間処理方法コード表

Ａ：焼却
Ｂ：脱水
Ｃ：天日乾燥
Ｄ：機械乾燥
Ｅ：油水分離
Ｆ：中和
Ｇ：破砕・粉砕
Ｈ：分級
Ｉ：圧縮
Ｊ：溶融
Ｋ：切断
Ｌ：焼成(ｾﾒﾝﾄ原材料)
Ｍ：堆肥化(発酵)
Ｎ：銀回収
Ｏ：ｺﾝｸﾘｰﾄ固型化
Ｐ：滅菌
Ｑ：煮沸
Ｒ：ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ
Ｓ：薬物消毒
Ｔ：金属(鉄)回収
Ｕ：非鉄金属回収
Ｖ：濃縮
Ｗ：油化
Ｘ：選別
Ｙ：固形燃料化(圧縮固化)
Ｚ：その他

⑬資源化用途コード表

１０：鉄鋼原料
２０：非鉄金属等原材料
３０：燃料
３１：木炭
４１：飼料
４２：肥料・堆肥
４３：土壌改良材
５０：土木・建設資材
５１：再生木材・合板
６０：パルプ・紙原材料
７０：ガラス原材料
８０：プラスチック原材料
８１：再生タイヤ
９０：セメント原材料
９１：再生油・再生溶剤
９２：中和剤
９３：高炉還元（コークス炉原料・高炉還元剤・ガス化）
９４：塩化鉄又硫酸鉄原料
９５：酸又はアルカリ
９８：その他

調査票(その2)の記入例

別紙の「廃棄物分類番号表」を参照してください。

該当する単位に、必ず○をつけてください。

⑤ｴﾈﾙｷﾞｰ回収の内容
1:発電
2:熱利用

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入してください。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入してください。

⑪処理後の処分方法
1 再利用・再生利用している
2 埋立処分している

⑫ｴﾈﾙｷﾞｰ回収の内容
1:発電
2:熱利用

	行番	①産業廃棄物の名称	②分類番号	③年間発生量 百万	十万	万	千	百	十	一	小数点以下	単位	④方法番号 1次処理	2次処理	3次処理	⑤ｴﾈﾙｷﾞｰ回収	⑥中間処理後量 百万	十万	万	千	百	十	一	小数点以下	単位	⑦処理・処分の方法	⑧処理・処分先又再生利用先の名称	⑨処理・処分先又は再生利用先の所在地	⑩方法番号 1次処理	2次処理	3次処理	⑪処理後の処分方法	⑫ｴﾈﾙｷﾞｰ回収	⑬資源化用途
記入例：A	1	プラスチック製品くず	0 6 0 0					2	3	0		kg (t) m³ リットル													kg t m³ リットル	U1	㈱●●	都道府県 △△ 市区町村	Y			1・2		30
記入例：B	2	合成繊維	0 6 0 1					1	0	0		kg (t) m³ リットル	A			1						3	5		kg (t) m³ リットル	S1	△△産業	都道府県 ●× 市区町村				1・2		
記入例：C	3	汚泥	0 2 1 0						5	0		kg (t) m³ リットル	B	D							1	0			kg (t) m³ リットル	S1	△△産業	都道府県 ●× 市区町村				1・2		
記入例：D	4	金属くず	1 2 1 0					1	0	0		kg (t) m³ リットル													kg t m³ リットル	W1	××商店	大阪 都道府県 ●● 市区町村				1・2		10
	5	金属くず	1 2 1 0						5	0		kg (t) m³ リットル													kg t m³ リットル	W1	○○（株）	広島 都道府県 ▲▲ 市区町村				1・2		10
記入例：E	6	廃油	0 3 1 1					9	7	2		(kg) t m³ リットル													kg t m³ リットル	U1	㈱×▼	兵庫 都道府県 ○○ 市区町村	E			1・2		30
記入例：F	7	廃タイヤ	0 6 0 4					4	0	0	5	(kg) t m³ リットル													kg t m³ リットル	X1	■■タイヤ販売	都道府県 △△ 市区町村				1・2		81
記入例：G	8	有害物質を含む汚泥	7 4 2 6						1	0		kg (t) m³ リットル													kg t m³ リットル	U1	㈱×▲	都道府県 ×▼ 市区町村	F	Z(混錬)		1・2		
記入例：H	9	感染性廃棄物	7 3 0 0				1	2	0	0		kg t m³ (リットル)													kg t m³ リットル	U1	□×㈱	都道府県 ▼▼ 市区町村	A			1・2	2	

ここでは、中間処理、再生利用や売却した先の名称を記入してください。委託した産業廃棄物が中間処理後に埋立処分されている場合は、中間処理業者の名称を記入してください。

記入例：A

- **プラスチックの製品くずが年間230t**発生し、自社では中間処理を行わず、すべて処理を委託した。
- **△△市の㈱●●**では、**圧縮梱包**し、**燃料**として**販売している。**

記入例：B

- **合成繊維**が年間**100t**発生した。
- 自社の焼却施設で**焼却**を行い、発生する熱エネルギーは発電に利用した。
- 焼却灰は、**3．5t**程度で、**●×市の△△産業に処理を委託し、そこで埋立処分された。**

記入例：C

- **排水処理汚泥**が発生し、**自社の施設で脱水、機械乾燥**を行い、脱水後の残さが**10t**（含水率85％）であった。
- 脱水前の量は、計算していないので正確ではないが、脱水前の含水率が97％であるため計算（上記「発生量について」参照）すると、**50t**程度となる。
≪計算式≫　10t×（100－85）÷（100－97）＝50t
- 処理後の汚泥は、**●×市の△△産業に処理を委託し、そこで埋立処分された。**

記入例：D

- 鉄板の加工の際に**鉄板くず**が年間**150t**発生した。
- このうち**100t**を**大阪府●●市にある××商店に売却**した。
- 残りの**50t**を**広島県▲▲市にある○○㈱に売却**した。
- 2社とも**鉄鋼材料**として再生利用した。

記入例：E

- 月平均で**一斗缶5本分の機械油**が発生した。
- 重量換算すると年間に**972kg**となる
(16.2kg×5本×12ヶ月：上記「発生量について」参照)。
- これらは、すべて**兵庫県○○市の処理業者㈱×▼に処理を委託**した。
- **㈱×▼**では、**油水分離後、燃料として再利用された。**

記入例：F

- **廃タイヤ**が年間**400.5kg**発生した。
- これらは、すべて**納入業者である△△市の■■タイヤ販売に渡した。**
- ■■タイヤ販売では**再生タイヤ**として利用している。

記入例：G

- **ガラス研磨汚泥**が年間**10t**発生し、それらはすべて**×▼町の㈱×▲に処理を委託**した。
- ㈱×▲では、**中和及び混錬処理した後、埋立処分されている。**

記入例：H

- **感染性産業廃棄物**が年間**1200リットル**発生した。
- これらは、すべて**▼▼市の□×(株)に処理を委託した。**
- **□×(株)**では、**焼却**処理後、**埋立処分**された。
- 焼却の際に発生する熱エネルギーは、冷暖房等に利用されている。